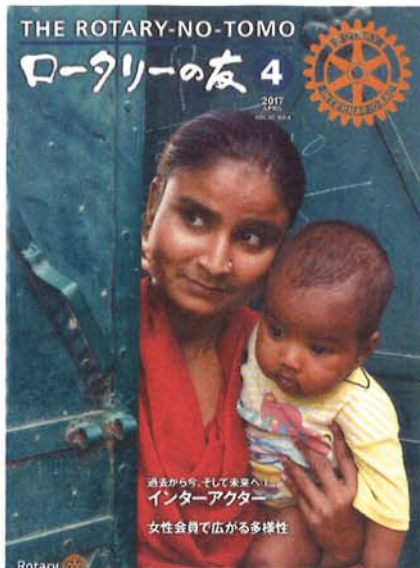


友のお供新聞

水戸RC
雑誌委員会

IACCの半世紀は

写真で振り返る変遷



ロータリーの友4月号の表紙

日本で最初にインターアクトクラブ(IACC)が結成されたのは1963年6月27日、宮城県の仙台育英学園高校でした。それから約50年。その歴史を写真で振り返っています。(●横組7P)

インターアクトの特集①では、「過去から今、そして未来へ」と題して茨城キリスト教学園高校を

じめ8校と、6地区の写真がふんだんに掲載されています。地元茨城県の茨城キリスト教学園高校IACCでは、同校のインターアクト11人と、日立港RC会員が特別養護老人ホームを訪問し、交流会を実施した写真が紹介されています。過去の例では、活動資金

を集めるために夏休み期間中にガソリンスタンドでアルバイトした京都西京商業高校IACC、阪神・淡路大震災の被災者支援をした松本工業高校IACC、肩もみでお年寄りと交歓した鹿屋高校IACCなど時代を反映した風景が目に残りま

ロータリーの友を読もう

4月号の横組36ページに、編集長の二神典子さんが「ロータリーと歌」と題したコラムを書いています。いつから、何のために歌うようになったのか。1905年

女性会員でしなやかに 広がるクラブの多様性

「女性会員で広がる多様性」と題し、全国8か所のロータリークラブが特集されています。

「硬くごちになかったクラブからしなやかになった」と成果を話す札幌幌南RCや、例会でフラワー

アレンジメントに挑戦する多治見西RC、女性会員が3割を超えながら「まだ満足できる数字ではない」と張り切る北西RCなど、女性会員の参加がクラブの活性化を促しているようです。(●横17P)

★職業奉仕とは？

「職業奉仕」の考え方に ついて、2007〜08年度のRI職業奉仕委員会委員だった廣畑富雄さん(福岡西RC)が解説しています。「職業サーヴィス」と訳し、「相手に対し、思いやりの心を持つこと」としています。

(●横組34P)

★健康の森フェス

結城RCは、結城市健康の森で下館RACなどと協力し、13回目の「健康の森フェスティバル」を開催。約700人の市民が自然観察やゲームなどを楽しんだそうです。焼きそばや豚汁などを販売、売上金は里山整備に寄付しました。

(■縦組26P)

★クラブを訪ねて

東日本大震災から6年。ロータリーの友の「クラブを訪ねて」のコーナーでは、被災地の岩手県大船渡西RCを紹介しています。同クラブは、被災2か月後には例会を再開、支援物資受け入れ態勢を整え、大奮闘したそうです。

(■縦組9P)

★母子の健康の重要性

女性ライフクリニック銀座院長の対馬ルリ子さんが、第2830地区大会で講演した「母子の健康」についての話が紹介されています。「女性が健康だと、家庭や社会が健康なる」と、女性の健康サポートの重要性を訴えています。

(■縦組4P)



フラワーアレンジメントに挑戦=多治見西RC

の秋、シカゴRCの例会で突然、ハリー・ラグルスが自ら立ち上がり、「おい、みんな、歌おう」と言い出し、当時の流行歌を歌った。以来、例会の合唱は伝統となったそうです。ラグルスが突然歌い出したのは、会員同士の相違がだんだん大きくなり、このままでは解散してしまうのではとの危機感から、当時幹事だったウイールR、ネットフがラグルスに「毎週楽しく歌うようにしてほしい」と依頼したのでした。今、水戸ロータリークラブでも歌われている「奉仕の理想」「我等の生業」は公募作品で、1935年5月、京都の地区大会で発表された入選作品の中の2曲です。

(風蕨)